



FUJIBO

The Focus on Innovation

第**204**期

中間報告書

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

富士紡ホールディングス株式会社

証券コード：3104



代表取締役社長
いのうえまさひで
井上雅偉

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第204期上半期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)の事業の概況等について、次のとおりご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進み、景気は緩やかに持ち直しております。しかしながら、混迷が長期化するロシア・ウクライナ情勢に起因する原材料価格やエネルギーコストの高騰、急激な為替変動による物価上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、中期経営計画『増強21-25』において、計画期間5年間の前半3年を「高収益体質への転換と種まき」ステージと位置づけ、各事業の成長基盤の増強に取り組んでおります。計画3年目となる当期については、事業の柱である研磨材事業は、半導体用途の需要が大幅に減少しており、1年近く続いた世界的な半導体市場の縮小に底打ち感がみられるものの、依然厳しい状況が続いております。化学工業品事業は、中国経済の低迷に加え、電子材料を中心とした市況悪化に直面し、一段と厳しさが増しました。生活衣料事業は、より収益性の高い製品への絞り込みと、コストアップに対応した価格転嫁を行いました。

この結果、当中間期の連結売上高は前年同期比2,510百万円(12.8%)減収の17,098百万円となり、営業利益は2,425百万円(72.6%)減益の917百万円、経常利益は2,144百万円(62.9%)減益の1,262百万円となりました。これに特別損益、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1,410百万円(61.1%)減益の896百万円となりました。

当事業年度の中間配当金につきましては、予定通り1株当たり55円とさせていただきます。

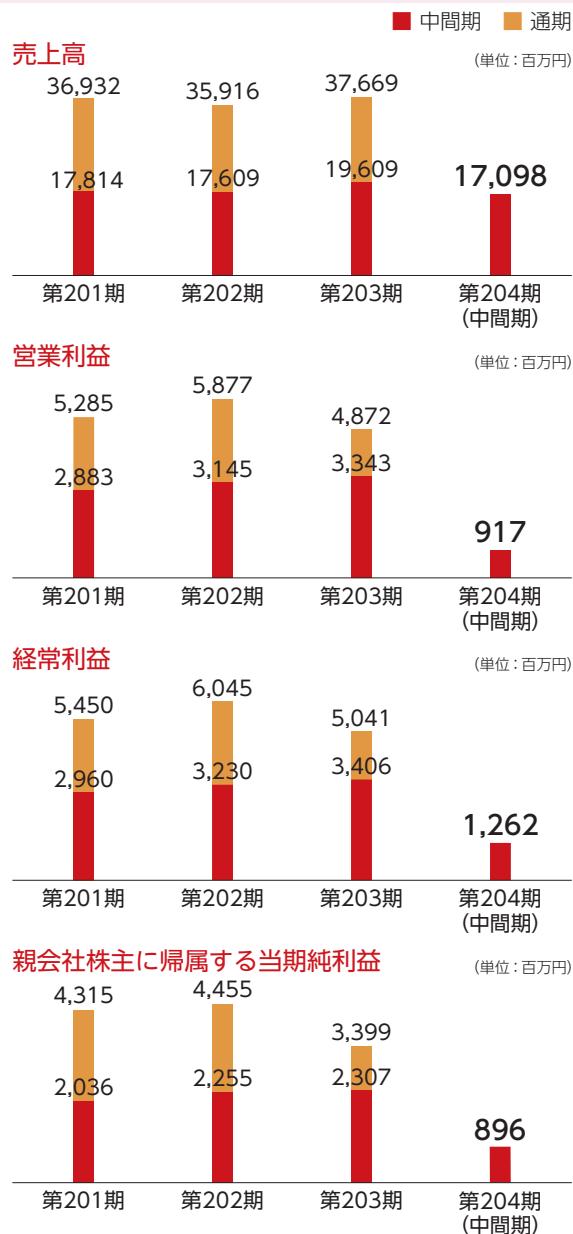
当社は、2021年度から2025年度を計画期間とする中期経営計画『増強21-25』を実行しています。本中期経営計画では、未来のありたい姿から導出した2025年像と現状の延長線上の2025年像とのギャップを特定し、中期的に取り組む施策を着実に実施します。加えて事業ポートフォリオの

積極的な見直しと持続可能で儲かるビジネスへの転換を段階的に図ることにより、“圧倒的なニッチナンバーワン企業”をめざします。計画期間5年間の前半3年を「高収益体質への転換と種まき」ステージ、後半2年を「非連続的成長の実現」ステージと位置づけ、収益機会の増加と提供価値の強化を施策の両輪として、『稼ぐ力』を強化いたします。同時にDX(デジタルトランスフォーメーション)の継続・深化にも取り組み、各事業の成長基盤を連続的・非連続的に「増強」していきます。さらに、社会の要請であるサステナブルな社会を創るための施策を提案し、実行してまいります。また、当社においても様々な社会経済環境の変化に直面しており、人材確保や新たな価値創造などの対応が急務となっています。働き方改革への取り組みもこれまで以上に進めてまいります。

主力の研磨材事業では、半導体市場の縮小に底打ち感がみられ、来期以降については、メモリやロジックなどの需要回復から、プラス成長に転じる見通しとなります。足元の急激な需要の減少に対応するため、設備投資計画の見直しや徹底したコスト削減を進める一方、将来の業容拡大を見据え、生産能力増強に向けた設備や最新の研磨評価設備の導入に取り掛かります。また、半導体生産の集積地である台湾に研究開発施設を設置し、ユーザーからの要望に対応することで、将来の売上拡大につなげます。化学工業品事業では、化学品市況は、半導体を中心とした電子材料市況の悪化により厳しい事業環境となっており、需要が大きく減退しております。一方で中長期的には機能性材料の受注拡大が見込まれることから、柳井・武生両工場の連携強化をさらに進め、新プラント建設に向けた付帯設備関連の投資にも着手しております。生活衣料事業では、円安によるコスト上昇に対応した適正な価格設定や高収益定番商品への絞り込みに加え、SNSなどを活用したダイレクトマーケティングにより、Eコマース型ビジネスモデルへの転換を順次進めています。その他の事業では、化成品事業は、医療機器用途向けの需要拡大が見込まれるため、各生産工場の能力増強投資を加速させ、重点3事業に続く第4の柱事業として育成すべく基盤整備を進めています。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月





研磨材事業

売上高 5,721百万円 営業利益 154百万円

主力の超精密加工用研磨材は、シリコンウエハー用途および半導体デバイス用途(CMP)などは、半導体市場の一部分野では底打ちの気配がみられるものの、依然として在庫レベルが高水準にあり在庫調整が続いていることから、需要が低迷し、大きく受注が減少しました。ハードディスク用途は、パソコンおよびデータセンター向けの需要減退により、受注は減少しました。また、液晶ガラス用途においてもデジタル機器の需要低迷によるパネルメーカーの急激な減産調整の影響を受け、受注が減少しました。一方、電気自動車(EV)をはじめとする車載向けやデータセンター向けに利用されるパワー半導体などの分野では、旺盛な需要が継続しております。

この結果、売上高は前年同期比2,786百万円(32.7%)減収の5,721百万円となり、営業利益は2,024百万円(92.9%)減益の154百万円となりました。



化学工業品事業

売上高 6,386百万円 営業利益 342百万円

一部の機能性材料、医薬中間体および農薬中間体などの受託製造は、海外生産リスクの顕在化による化学工業品生産の日本国内回帰の傾向が続き、堅調に推移しました。一方で化学業界全体は、世界的な需要の減退に加え、半導体を中心とした電子材料市況の悪化により厳しい事業環境となっており、全体としては受注が減少しました。原材料・エネルギー価格高騰による製品コスト上昇部分については、価格転嫁を実施しました。

この結果、売上高は前年同期比255百万円(4.2%)増収の6,386百万円となり、営業利益は359百万円(51.2%)減益の342百万円となりました。



生活衣料事業

売上高 3,449百万円 営業利益 384百万円

売上高構成比
20.2%



繊維素材は、ロシア・ウクライナ情勢を要因とした原油価格上昇に伴う物流や原材料のコスト高に加えて、円安に伴う部材調達や海外製造コストの高騰が更なる追い打ちをかけ、厳しい環境が続きました。繊維製品は、店頭販売では、より収益性の高い製品への絞り込みにより堅調に推移しました。また、ネット販売では、多様化する顧客ニーズや市場動向に応じ、デジタルマーケティングを強化することで堅調に推移しました。



この結果、売上高は前年同期比182百万円(5.0%)減収の3,449百万円となり、営業利益は16百万円(4.1%)減益の384百万円となりました。

その他の事業

売上高 1,541百万円 営業利益 36百万円

売上高構成比
9.0%



化成品部門は、医療機器用部品では、医療用プラスチック市場の回復傾向により受注が増加しましたが、デジタルカメラ用部品では、半導体不足の影響を受け、受注が減少しました。金型部門では、自動車向け金型は苦戦しましたが、金型子会社がグループ入りしたことにより売上高が増加しました。貿易部門では、より収益性、安全性の高い取引に対象を絞ったことに加え、代理店営業の有効活用により、収益性の改善に取り組みました。



この結果、売上高は前年同期比202百万円(15.1%)増収の1,541百万円となり、営業利益は26百万円(41.9%)減益の36百万円となりました。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 2023年9月30日 現在	前期 2023年3月31日 現在
資産の部	60,786	61,368
流動資産	22,592	23,003
現金及び預金	7,365	8,105
受取手形及び売掛金	8,158	8,002
商品及び製品	1,301	1,109
仕掛品	2,940	2,814
原材料及び貯蔵品	1,825	1,947
その他	1,009	1,030
貸倒引当金	△7	△7
固定資産	38,194	38,365
有形固定資産	33,468	33,968
建物及び構築物	10,977	11,091
機械装置及び運搬具	7,126	7,458
土地	13,880	13,852
その他	1,484	1,565
無形固定資産	1,310	1,397
のれん	1,072	1,142
その他	237	254
投資その他の資産	3,414	3,000
資産合計	60,786	61,368

科目	当中間期 2023年9月30日 現在	前期 2023年3月31日 現在
負債の部	17,101	18,448
流動負債	10,269	11,869
支払手形及び買掛金	4,047	4,087
電子記録債務	1,153	1,155
短期借入金	1,244	1,292
未払法人税等	512	709
賞与引当金	747	727
その他	2,564	3,896
固定負債	6,832	6,578
長期借入金	240	26
退職給付に係る負債	4,224	4,276
資産除去債務	499	490
その他	1,867	1,784
純資産の部	43,685	42,920
株主資本	40,468	40,179
資本金	6,673	6,673
資本剰余金	2,213	2,206
利益剰余金	32,081	31,815
自己株式	△501	△515
その他の包括利益累計額	3,216	2,740
その他有価証券評価差額金	1,008	731
繰延ヘッジ損益	△5	1
土地再評価差額金	1,540	1,540
為替換算調整勘定	731	523
退職給付に係る調整累計額	△57	△56
非支配株主持分	0	0
負債純資産合計	60,786	61,368

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	2023年4月1日～ 2023年9月30日	2022年4月1日～ 2022年9月30日
売上高	17,098	19,609
売上原価	12,326	12,570
売上総利益	4,772	7,038
販売費及び一般管理費	3,854	3,694
営業利益	917	3,343
営業外収益	461	219
受取利息	0	0
受取配当金	37	30
固定資産賃貸料	156	174
補助金収入	200	—
その他	66	13
営業外費用	117	156
支払利息	12	6
固定資産賃貸費用	42	40
その他	62	109
経常利益	1,262	3,406
特別利益	138	2
固定資産売却益	9	2
投資有価証券売却益	128	—
特別損失	36	40
固定資産処分損	29	40
減損損失	6	0
その他	0	—
税金等調整前四半期純利益	1,364	3,367
法人税、住民税及び事業税	445	1,014
法人税等調整額	21	45
四半期純利益	897	2,307
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	896	2,307

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	2023年4月1日～ 2023年9月30日	2022年4月1日～ 2022年9月30日
営業活動によるキャッシュ・ フロー	2,091	2,126
投資活動によるキャッシュ・ フロー	△2,289	△1,005
財務活動によるキャッシュ・ フロー	△588	△699
現金及び現金同等物に 係る換算差額	44	71
現金及び現金同等物の 増減額 (減少:△)	△742	493
現金及び現金同等物の 期首残高	8,090	8,315
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,348	8,808

最先端のユーザーニーズ に応える製品開発

IoT社会や脱炭素社会への移行が加速するなか、スマートフォンやパソコン、家電製品をはじめ、自動車、各種センシングデバイスなどに使われる電子部品の高機能化が進んでいます。

こうした分野で使われている最先端半導体やパワー半導体などの製



造過程において、フジボウ愛媛(株)の超精密加工用研磨材が果たす役割はますます大きくなっています。

この役割を果たすため、AI画像認識を活用した製品検査システムや分子レベルの表面形状解析評価装置などの設備を拡充しました。また、最先端のメモリおよびロジック集積回路における高度な課題解決を可能とする欠陥検査システムを新たに導入し、半導体メーカーと同等の実証試験を行うことで最先端のユーザーニーズに合わせた精度の高い製品開発を進めてまいります。



業容拡大に向け、 工場関連施設を拡充

柳井化学工業(株)は、ファインケミカルの受託生産で培った高い技術力でお客様の信頼を得て、機能性材料



を中心に中間体製造を拡大しています。需要の伸展に対応するため、これまででも数次にわたり柳井本社工場・武生工場で生産設備・環境関連設備の増強を行ってきました。

近年、柳井本社工場では隣接地の取得とそれを活かした工場レイアウトの変更を順次進めており、ZEB倉

庫の新設やユーティリティ設備の更新を実施。このたび、製造プラント増設を視野に入れ、人員拡充に対応するために事務所棟を増築しました。

また、今後見込まれる受注品目の増加や分析要求度の高まりに応え、各種計測機器を増設するため、品質管理棟のレイアウトを再編し、設置スペース等の拡張を行いました。



夏のブラから フルシーズンのブラへ

“下着の締め付けから女性を解放する”をコンセプトに、2009年に誕生したB.V.D.「涼ブラ」。その名のとおり、“軽く、ムレにくく、すぐ乾く”が評判となり、累計販売数で300万枚を突破しました。

従来は春夏シーズンを中心とした販売でしたが、2021年4月に開設した「涼ブラコミュニティ」には、「重ね着や



暖房でもムレを感じず冬でも快適」「すぐ乾くので年間をとおして着用している」というユーザーの声が寄せら

れていました。この声を受けて、2022年秋冬シーズンからは、ECサイトにて「ニットにフィットするブラ」として、秋冬の販売強化にも取り組み、前年比2倍以上の販売を達成しました。2023年秋冬シーズンからは店頭での販促にも力を入れます。

「涼ブラ」には老舗メーカーと共同開発した高品質な日本製素材を使用しており、今後、海外を含めた新たな販路や展開を視野に更なる認知拡大をめざします。



Topics

3

生活衣料事業

小学生とパラスイマーが交流授業 -ふくのわプロジェクト-

当社は、SDGsへの貢献を目的とする「ふくのわプロジェクト」(産経新聞社主催)のオフィシャルパートナーとして8年目を迎えます。ふくのわプロジェクトは、まだ着られる衣類の寄付で障がい者スポーツ(パラスポーツ)を応援する活動です。



その活動の一環として、本年度は、7月に東京都内の小学校でパラスイマーと生徒による交流

授業を開催しました。講師はパラスポーツ団体「日本知的障害者水泳連盟」の選手と関係者のみなさん。東京パラリンピック競泳男子メダリストや関係者のみなさんが、3~4年生約240人に水泳の楽しさを伝えました。

生徒たちは交流授業に先立ち、知的障がいを抱える人々の困りごとやふくのわプロジェクトについても学習し、パラアスリートとの触れ合いを通じて共生社会への理解を深めました。



Topics

4

サステナビリティ

会社概要

商号	富士紡ホールディングス株式会社
本社所在地	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町一丁目18番12号
大阪支社	〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町一丁目8番12号
設立	1896年3月24日
資本金	66億7383万2000円
従業員数	単体123名 連結1,314名
主要な事業内容	1. 研磨材・不織布・合皮の製造、加工、販売 2. 各種化学工業品の製造、加工、販売 3. 各種繊維製品の製造、加工、販売

連結対象会社

■ 研磨材事業

フジボウ愛媛(株)

台湾富士紡精密材料股份有限公司

フジケミ(株)

■ 化学工業品事業

柳井化学工業(株)

■ その他の事業

フジケミ(株)

(株)東京金型

(株)IPM

■ 生活衣料事業

(株)フジボウアパレル

ジンタナフジボウコーポレーション

フジボウテキスタイル(株)

タイフジボウテキスタイル(株)

富士紡(上海)商貿有限公司

役員

代表取締役社長 社長執行役員	井上 雅 偉
代表取締役 専務執行役員	豊岡 保 雄
代表取締役 常務執行役員	平野 治
取締役 上席執行役員	望月 吉見
取締役 上席執行役員	佐々木 辰也
取締役	ルース・マリ・ジャーマン
取締役	小林 久志
取締役	佐藤 梨江子
常勤監査役	野口 篤 謙
常勤監査役	大西 秀 昭
監査役	大塚 幸太郎
監査役	藤居 勝也

(注) 1. 取締役のルース・マリ・ジャーマン、小林久志、佐藤梨江子の3氏は社外取締役であります。
2. 監査役の大西秀昭、大塚幸太郎、藤居勝也の3氏は社外監査役であります。

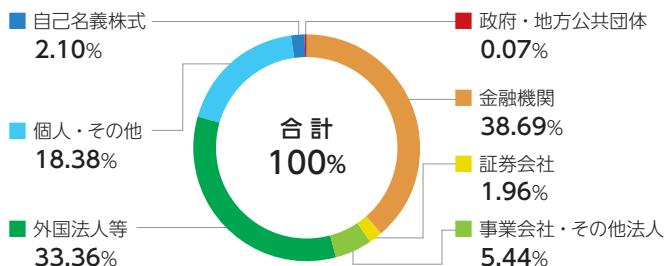
執行役員

常務執行役員	鈴木 眞
常務執行役員	安藤 興司
上席執行役員	清水 康弘
執行役員	岡田 祐明
執行役員	中村 隆夫
執行役員	戸坂 浩二
執行役員	広田 幸史

株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	11,720,000株
株主数	6,176名

所有者別分布状況



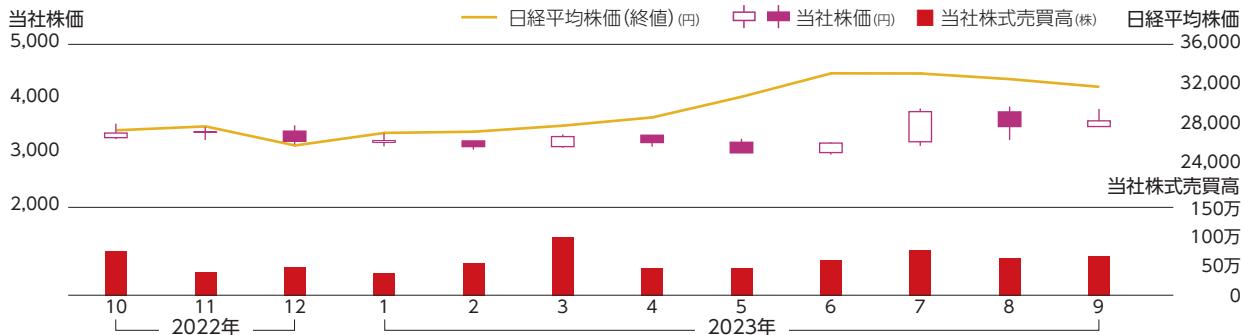
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,606,000	14.00
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,050,589	9.16
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	825,700	7.20
BBH(LUX) FOR FIDELITY FUNDS - PACIFIC POOL	559,900	4.88
明治安田生命保険相互会社	533,500	4.65
株式会社三菱UFJ銀行	500,000	4.36
三菱UFJ信託銀行株式会社	322,500	2.81
フジボウ共栄会	311,400	2.71
福岡 務	206,200	1.80
JPLLC CLIENT ASSETS - SK J	191,200	1.67

(注) 1. 当社は自己株式を245,677株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

当社株価・売買高および日経平均株価の推移 (東京証券取引所)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.fujibo.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

富士紡ホールディングス株式会社

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-18-12
電話 03-3665-7777(代)



<https://www.fujibo.co.jp/>

